

**働き方改革推進会議での主な意見**

(会議での意見から学校・家庭・地域の役割についての部分を抜粋)

- 小学校に入学するまでに学校生活を送る上で必要なことを家庭で身に付けられるようにすることが、先生の負担を取り除くためには必要ではないか。
  
- しつけ、習慣は生まれてから成長のなかで身についていくもので、周りにいろいろな事をきちんとできる子がいると影響を受けてできるようになっていたりする。そういったよい影響を受け合う環境を作るのが学校の役割であると思うが、もともとの素地は家庭で作っていくべきである。
  
- 学校と家庭と役割をはっきり分けることは意味がない。たとえばあいさつでは、家庭でも行うし、地域でも行い、学校でもやっていくことだと考える。
  
- 家庭教育の啓発について行政としての取組があってもよい。教員の働き方を広く見据えながら、県として全体の意識付けをすることは意味がある。ただ、家庭と学校は単純に役割分担すればよいということではないことをふまえる必要がある。また、個々の自立性によって成り立つ家庭教育の領域なので一律的に取組の効果を想定してはいけない。